

続文化は、 今に生きる

現在の野生種は、肩高一〜一五m。乾燥した草原や半砂漠地に大小の群ですみ、おもにイネ科の草を食べる。馬は、一指(第三指)で立ち、脚の関節は一方方向のみ動くなど、走るのに特化した奇蹄類。胃や腸の消化能力が、牛ほど強くないので、栄養価の少ない草原のイネ科植物を大量に食べるために、乾燥したかたい地面を速く走って、採食地域を広く確保する。眼球はゆがんで

その証拠が、西アジアのメソポタミア、現イラクにあるウル王墓の出土品にある。今から四五〇〇年ほど前にさかのぼる。その箱には、片面に戦争の場面が、もう片面には平和の場面が象徴してあった。木地に瀝青をぬり、人物・動物・車・楽器などを切りぬいた貝殻ではめ、背景にフピスラズリーをはるといふ豪華さ。車は、二人乗りの戦車で、これをひく動物は、耳や脚、それに尾の特徵から、アジアノロバ亜属に属する、野ロバのオナガーだった。草原地帯のウクライナでは、ドレイフカ遺跡で、鹿角製車輪は、オナガーや牛がひいて、衛留具が見つかっている。六〇〇〇年前のまだ車のない頃。それは、馬の口にかませる銜を、口の両側でずれないようにする馬具。この使用を裏つけるように、遺跡から出土した馬の歯に、銜をかませたとときに生じる下顎第一臼歯の前面に四凹ほどの擦痕がみついている。馬は、銜をかませ、手綱をとって、ようやく人間が操れるようになる。追いついて、中国に達したらしい。胡兒 十歳にして エジプト・ツタンカーメン王の馬車と中国・秦始皇帝の馬車は、その構造が驚くほど似ている。

馬のこと

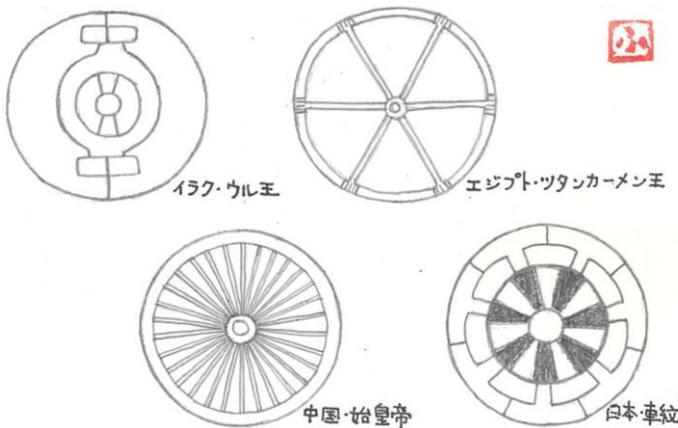
深澤芳樹

今年、午年。そこで奇蹄目ウマ科ウマ属の哺乳類、脚力にすぐれ、高速で長距離移動が得意な、馬のはなしを。

祖先は、五五〇〇万年前、北アメリカにいたヒラコテリウム、

子犬くらいの大きさだった。二〇〇万年前には、一本指のエクウスが出現し、南北アメリカ、ユーラシア、アフリカに大放散する。アメリカ大陸では、一万年前に絶滅する。

アで車輪付車が生まれた頃、車をひいたのは馬ではなかった。



車輪のいろいろ (深澤芳樹写)

た車輪だった。五〇〇〇年ほど前にできたこの板車輪は、メソポタミアのものすごい発明品。この車輪は、オナガーや牛がひいて、ここから各地にひろまっていた。インダス文明では、この車を牛がひく十製品が見つかっている。

車輪の発明から一〇〇〇年ほどして馬がひきはじめた頃、西アジアでスポーク付輻車輪にかわる。そしてこの馬車が、急速にひろまる。中国殷代に突然あらわれた車は、馬十輻車輪だった。あとから現れたこの軽快な馬車は、ロバ・牛十板車輪車を途中で追いついて、中国に達したらしい。

胡兒 十歳にして エジプト・ツタンカーメン王の馬車と中国・秦始皇帝の馬車は、その構造が驚くほど似ている。

高適作「采州歌」 『魏志倭人伝』に倭に馬はいなほどたつて、馬とその操縦法が、草原地帯から古墳の濠から、木製輪鏡が見つかった。ひよつとして、魏の使者が、馬を車の駆動力に使う馬をつれてきて、騎乗パレードでようになった。ここに、馬に寝て 残夢月遠し 茶のけすなわち、ウル王墓 芭蕉

(日本考古学)